

～埋蔵文化財発掘ミュージアム～

## →古代のごみは **今のお宝！鉄滓**

早良区有田

ありた  
**有田遺跡群**



今回発掘された鉄滓

この謎の物体は、有田遺跡群で見つかった奈良時代（8世紀ごろ）の「鉄滓」です。鉄滓とは、砂鉄から鉄を作り、鉄から製品を作る際に出る産業廃棄物…いわば「ごみ」です！この鉄滓がまとまって出土したということは、この地で鍛冶が行

われていた証拠となります。有田遺跡には当時の役所があったと考えられています。役所の周辺で鍛冶工人たちはどのような鉄製品を作っていたのでしょうか。このごつごつした「ごみ」が将来その答えを教えてくれるかもしれません。

## →江戸時代の暮らしを発掘

西区大字金武

とじ  
**都地遺跡**

煙管と紅皿



都地遺跡で江戸時代の土器や金属製品などが出土しました。中でも目を引くのは青銅製の煙管と美しい唐草文様が浮き彫りされた化粧用の紅皿です。煙管は竹製の管の部分が折れています。

これを見ると、時代劇などで見かける道具が実際の暮らしの中で使われていたことを実感することができます。

※いずれの発掘調査も終了し、遺跡はすでに埋め戻されています。紹介した出土品は整理作業を行い、発掘調査成果を刊行したのちに埋蔵文化財センターに収められ、閲覧や展示に活用されます。

## → 8・9月のイベント情報

8月

げんせいほうりゅうもうそうびわ

6日 玄清法流盲僧琵琶 (南区高宮1 成就院)

(県指定無形文化財)

13～15日 田隈の盆押し・盆綱引き (早良区野芥2)

(市指定無形民俗文化財)

15日 草場の盆綱引き (西区大字草場)

(市指定無形民俗文化財)

16日 西浦のかずら引き (西区大字西浦)

(市指定無形民俗文化財)

16～17日 志賀島の盆踊り (東区大字志賀島)

(市指定無形民俗文化財)

17日 宇田川原豊年獅子舞 (西区周船寺 丸隈山古墳)

(市指定無形民俗文化財)

20日 子ども考古学教室 (埋蔵文化財センター)

※参加者の募集は7月で終了しています。

9月

10日 埋蔵文化財センター考古学講座 第4回

「人物埴輪の成立と展開」 講師：小栗 明彦氏

(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館)

24日 板付弥生のムラ「土器づくり体験教室」

※応募要項は市政だより8月15日号・ホームページをご覧ください。

## 福岡市

住所：福岡市中央区天神1-8-1

TEL：092-711-4666 FAX：092-733-5537

文化財の保存・管理・整備・活用に関すること

文化財保護課 TEL:092-711-4666

福岡城跡と鴻臚館跡に関すること

大規模史跡整備推進課 TEL:092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL:092-711-4667

埋蔵文化財センターに関すること

埋蔵文化財センター TEL:092-571-2921

ホームページ「福岡市の文化財」

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも

情報発信中！



# 歴史の風 ふくおか文化財だより

Vol.4 2016年8月号

～アプリを使って見に行こう～

## ペンガラ漆が輝く町家 箱嶋家住宅



赤色が美しい欄干（らんかん）

箱嶋家住宅は菅崎宮の南、旧唐津街道沿いにある福岡市を代表する伝統的町家のひとつです。建てられたのは明治時代の初めごろで、江戸時代後期の建築様式が用いられています。

屋内は随所にペンガラという赤い顔料で着色した漆が“透き漆塗り”という木目を残す最高級の手法で塗られており、深みのある美しい輝きを見せています。かまどには火の神様である荒神様が祭られており、5月の「荒神祭り」をはじめ、年間を通してイベントが開催されています。市内で唯一、江戸末期から明治初期の生活空間を体験できる町家を訪れてみませんか。

### <文化財基本データ>

文化財指定 国登録有形文化財（建造物）  
所在地 福岡市東区馬出2丁目21-27  
登録年月日 平成19（2007）年12月5日  
アクセス 地下鉄馬出九大病院前5番出口から徒歩4分、西鉄バス「馬出通り」徒歩2分  
見学時間 土曜・日曜の午前10時～午後5時  
入場料 無料  
問い合わせ 箱嶋家（電話090-5043-2107）



この文化財は、スマートフォンアプリ【福岡歴史なび】の散策ルート「8. 唐津街道と宿場町-箱嶋」に掲載されています。周辺の文化財情報も満載です。まずはアプリをダウンロード！



ダウンロードはこちら

## →山好きも歴史好きも柑子岳へ！

～ここにも遺跡～

8月11日の「山の日」にちなみ、今回は西区今津の柑子岳（標高254m）をご紹介します。「え？山？」と思うかもしれませんが、柑子岳は今から460年前の戦国時代、キリシタン大名で有名な大友氏が拠点にした山城『柑子岳城』なのです。



柑子岳山頂からの眺め



山頂の曲輪跡部分

山城は、居住目的というよりも防御第一。天守閣はありません。代わりに平らな場所（曲輪）を作って陣を構えます。頂上の展望台付近がそれにあたります。また一の谷登山口から山頂に向かう途中の斜面には幾筋にも溝が掘られています。敵状堅堀と呼ばれるこの溝は、敵の侵入を防ぐために作られたものでした。

大原海水浴場のある長浜海岸からは、かつては城であった山の静かな姿全体を見ることができます。山派の方は登って体感。海派の方は眺めて想う。見る場所・見る人によって表情を変える柑子岳。訪れてみてはいかがでしょうか。



## →埋文センターのヒ・ミ・ツ

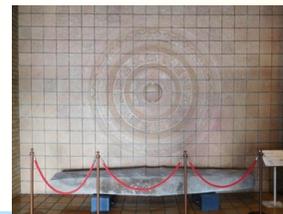
～埋蔵文化財センターだより～

「壁画みたいでステキですね」とよく言われます。何がと言いますと、2年前に改装した建物正面の外観です。以前はタイル貼りでしたが、老朽化で落下の恐れが生じたためタイルをはがすことにしました。防塵シートで壁を覆って工事が始まりました。タイルの下地のモルタルまで傷んでいて、それをはずすと壁の表面が凸凹に。さらに至るところにモルタルを機械で切った時についた直線のキズ。ところが、仕上げに防水効果のある茶色のペンキを塗って防塵シートをはずしてみたら、まあビックリ。芸術家が描いた幾何学的な名画か彫刻のようで、意外とカッコいいデザインに！まさに偶然が作りだしたアートと言えます。



壁画みたい!?センター外観

玄関正面の壁には大きな鏡のデザイン。どこの遺跡の鏡かな？福岡空港東側の丘、いま席田中学校がある地点（宝満尾遺跡）から出土した弥生時代の鏡です。本物は直径10cmくらいの小さなものですが、市の指定文化財にもなっている貴重な鏡なんですよ。



玄関正面の壁に描かれた鏡



たまちゃん コウコ しかさん

## →福岡城・扇坂の正体に迫る！

～福岡城ただいま発掘調査中～

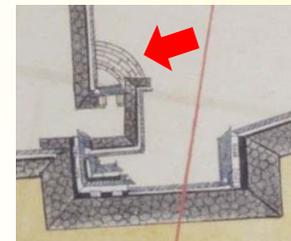
福岡城二ノ丸にある梅園から東側の球技場へ向かうと、二股に分かれている階段があります。ここは扇坂と呼ばれる場所で、現在この扇坂をかつての姿に復元するための発掘調査を行っています。



現在の扇坂。2つの階段があります。

『御城内絵図』

(1699年)には、扇のようにひろがる石段が描かれています。しかし、幕末や明治の古写真に扇坂の姿はおさめ



『御城内絵図』に描かれた扇坂（福岡市博物館蔵）

られておらず、絵図の他には記録が残っていません。また、いつ扇坂が今のような階段に作り替えられたのかも不明です。果たして扇坂の姿はどのようなものであったのでしょうか？発掘調査は

8月末まで行う予定です。福岡城にお越しの際はのぞいてみてください。

※発掘の様子は「福岡市の文化財」ホームページとFacebookでもお知らせします。ご期待ください。

